

天皇杯 JFA 第 98 回全日本サッカー選手権大会 2 回戦 (vs.名古屋グランパス) PK 方式やり直しについて 奈良クラブの見解

平素より、奈良クラブに格別なるご支援とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

本件につきまして、奈良クラブの見解を述べさせていただきます。

私たちは、天皇杯 JFA 第98回全日本サッカー選手権大会 2 回戦(vs.名古屋グランパス)の PK 方式のやり直しに挑戦します。

このような決意に至るまでには多くの葛藤がありました。

先日行われた天皇杯2回戦の勝利の余韻も冷めやらぬ2日後、日本サッカー協会より「主審の競技規則の適用の誤りにより、奈良クラブの敗戦とする」旨が通達され、経験したことのない絶望とやり場のない怒りがチームを襲いました。その通達が覆るまでの間には、JFL のリーグ戦が行われ、複雑な思いを抑えてプレーせざるを得ない状況でした。

その後、日本サッカー協会より発表された「審判員の判定に関する審判委員会の見解について」において、「フェイントとして判定された金久保選手のキックは、正当なキックであった。即ち、主審の下した判定は誤りであった。」と報告を受けております。

選手たちは、競技者として、潔く全身全霊を尽くし、PK 方式の再度実施に臨むことを誓っております。

また、名古屋グランパス様には、これまでも私たちと友好的な関係を築いてくださっており、初めての公式戦での対戦の中で、フェアにプレーしていただき、私たちの力を存分に引き出してくださいました。試合後においても、本件に対し、真摯にご対応いただきましたことに感謝を申し上げます。

日頃より活躍される審判員、審判アセッサー、マッチコミッショナーの皆様が、本件を糧に、更なる審判レベルの向上と競技規則の周知徹底をしていただき、2度とこのようなケースが起らないよう願っております。これからも選手たちの真剣勝負の一瞬の輝きを裁いてもらいたいと望んでおります。私たち奈良クラブも、サッカーファミリーの一員として、ファン・サポーターの皆様にご喜ばれるクラブを目指して参りますので、引き続き温かいご支援、ご声援を宜しくお願い申し上げます。

2018年6月15日
特定非営利活動法人奈良クラブ
理事長 矢部次郎
選手スタッフ一同